

第4・5回生涯学習推進審議会 フリートーク内容一覧

テーマ	内容
生涯学習市民リーダーの人材把握について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民リーダーは自己申告に基づく登録のため、どのような人が把握できず、派遣の判断が難しい。</li> <li>・市民リーダーの把握にあたり、対象者が講師をする場合はほぼ同席するなど同会長の負担が大きい。</li> <li>・市民リーダー同士の知り合う仕組みやカテゴリごとのグループ化が進むと人材の把握や適切な派遣につながる可能性がある。</li> </ul>
ボランティアへの参加について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア参加にあたり、守秘義務や人との接し方などの注意事項を記した資料があるといい。</li> <li>・市の事業にボランティアとして参加する場合は、事前に説明会などがある場合もあるが、地域の人の声掛け等で始まったボランティアには手引きのようなものはない。</li> <li>・「講義を聞いて勉強しましょう」とするのではなく、お互いが確認できるツールなのか手段なのか、参加していただくことへの感謝と参加にあたり配慮することがあるということが伝わる学びの場を設けることも必要。</li> <li>・ヒト・物・金・時間などのリソースが負担になっており、ボランティア全体の課題だと思う。</li> </ul>
デジタルデバイドについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナにより、インターネットやオンライン会議が普及して、デジタルデバイドの問題について、生涯学習の立場からはどのようなことを進めていくべきか。</li> <li>・学習館にWi-Fiが整備され、多くの方がスマホを持つ時代になっていることもあり、問題は広がっているように感じられる。</li> <li>・錦学習館でスマホを使ったバーコード決済で買い物をしてみようという講座が実施された。</li> <li>・デジタルは推進しつつ、出会いの場や交流の場もつくっていかなくてはいけない。</li> </ul>
講座の企画について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人気の講座はすぐ埋まってしまうので、市民のニーズをしっかりと把握してほしい。</li> <li>・単発の講座が多く、立川市をもっと知ってもらうために継続性のある講座の企画をして、内容を深めたり、グループを立ち上げたりする人が出てくるのが望ましい。</li> <li>・講座によっては語られる内容（講師をできる人が）が途絶えてしまわないように、若い人たちにどのように受け継いでいくか考えなくてはいけない。</li> </ul>

障害者理解について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身が怪我をして不自由になった時に、元気だったらできるのにと感じることもあり、足りない部分について深掘していく必要性を感じた。</li> <li>・ニーズはあるけど気づいていなかったり、ニーズは少ないけど确实あるようなものをどう発掘するか。</li> </ul>
市民性学習（シティズンシップ学習）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の考え方を理解し合う、自らが考え判断して行動する力を養うなど、社会の構成員として市民が伝え、市民が備えるといった市民性を育成するための教育を推進してほしい。</li> </ul>
ウェルビーイングについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が頑張ってきた自分ひとりの『個』の幸せから今度は社会全体で『ウェルビーイング』を目指す。次期計画ではこの点を強調していただけたらと思います。</li> </ul>
グループでの学び方や運営の仕方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びから活動への循環を促したときに学んだことを個人で活用することにハードルがある。生涯学習の分野の学びとして、自主的なグループ学習であったり、運営の仕方などを学ぶことによって、活動の継続性を高めることができるのではないか。</li> </ul>
活動のプログラム化について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとりがメニューを組み合わせるのではなく、半年や一年を通して学び、活動を通じてチームを作っていけるようなものをプログラム化できるといい。卒業後もゆるやかにつながり、バックアップするなどして、未来に活動する人の育成をサポートできるような仕組みがあるといいのではないか。</li> </ul>
職員とコーディネーターの育成について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習推進センター以外の部署でも、市民と協働したり、学習を企画したりしていて、センターの職員とも連携して仕事することがあるので、コーディネーター的視点を持っているといいものが出来上がると思う。センターが核となって様々なところに学ぶ機会の提供を行う先導をしていくという考え方もできる。</li> <li>・職員が積極的に社会教育関係団体などに参加して、実情にに触れるような機会が増えれば、必然的にコーディネート力が向上すると思う。</li> <li>・職員がそれぞれの役割、生涯学習推進の方向性などを理解していないと取り組む方向性が違ってきてしまう。それぞれの役割を再認識することで地域課題を解決しながら進む方向性を定めていけるのではないかと感じる。</li> </ul>